

市民の生命、財産を守る不屈の消防精神

# 消防団定期観閲式

つがる市消防団定期観閲式が6月19日、イオンモールつがる柏で開催され、市内各地区の消防団員が日頃の防火・防災訓練の成果を披露しました。



箱田消防団長を先頭に勇壯な分列行進スタート



福島市長らによる視閲点検



激しい水圧に耐えて競い合う玉落競技大会



規律正しい動きで機械器具点検に向かう団員

## ◆総合成績（視閲点検、機械器具点検、分列行進）

- 優勝 柏大隊
- 第2位 森田大隊
- 第3位 稲垣大隊

## ◆玉落競技大会（優勝）

- 50馬力以下
  - 木造第17分団（千代田・遠山） 53秒01
- 51馬力～85馬力
  - 木造第3分団第1部（川除） 16秒56
- 86馬力以上
  - 航空自衛隊車力分屯基地第21高射隊 33秒53



放水訓練を披露するかしわこども園の園児



火の用心を呼び掛けるかしわあっぷるこども園の園児

現在、つがる市消防団は56分団、消防ポンプ車等81台が配備され、1,172人の団員が消火栓や消防ポンプの管理、消火訓練などを行いながら、万一の災害に備えています。

観閲式では、観閲者である福島市長らによる視閲点検、機械器具点検、分列行進などが行われ、団員らは地域住民の安心・安全の確保に向け士気を高めました。審査の結果、柏大隊が日頃の備えと訓練の成果を発揮し、5年連続の総合優勝を飾りました。また、森田中学校吹奏楽部が特別演奏を披露。幼年消防クラブ（かしわあっぷるこども園、かしわこども園園児）は、消防団員に負けじと元気な行進や機械器具点検・放水訓練などを実演し、会場を大いに盛り上げました。

引き続き開催された式典では、表彰伝達・授与が行われ、179人の団員らと3つの分団が各表彰を授与されました。福島市長は「熊本地震や、本市では4月の暴風被害など、災害は各地で頻発しており、防災の要である消防団の役割は益々高くなっていきます。不屈の消防精神のもと、より一層のご誠心をお願いします」と激励の言葉を述べました。

恒例の玉落競技大会では、29の分団と航空自衛隊車力分屯基地第21高射隊が参加。応援に駆けつけた団員の家族や訪れた観客の声援が飛び中、吊るされた玉を目掛けて高々と水柱が上がり、白熱した競技が繰り広げられました。

# 命のあたたかさを体感

柏中学校「赤ちゃんふれあい教室」



お母さんにサポートされながら、着替えやおむつ替え、ミルクをあげるなど育児を体験した生徒たち



柏中学校（阿部鋭校長）の3年生37人が6月3日、森田保健福祉センターあーすとぴあで行われた「赤ちゃんふれあい教室」に参加し、赤ちゃんの力強さや温かさを感じながら命の大切さを学びました。この日は赤ちゃんとお母さん・お父さん15組が参加し、5班に分かれてふれあいスタート。初めはおそろのおそろ赤ちゃんに接していた生徒たちでしたが、お母さんらに教えてもらい、抱っこやおんぶをしながら、徐々に打ち解けていきました。お母さんが話す育児の体験談などにも真剣に耳を傾け「夜泣きは大変ですか?」「名前の由来は?」などと質問し、親の愛情を感じていました。生徒の一戸敬介さんは「赤ちゃんは柔らかくて温かかった。暴れて大変でしたがミルクを飲んでくれた時はうれしかった」と話していました。川村知果ちゃんの母親の志穂里さんは「自分も中学生の頃にこの教室に参加し、その時の印象が今でも残っている。今日参加した生徒さんも、いつか親になったら今日の経験を思い出してがんばってほしい」とエールを送っていました。



# 地域ぐるみの結婚応援を考える

結婚応援シンポジウム〜希望する結婚の実現に向けて〜

結婚応援シンポジウムが6月12日、柏ふるさと交流センターで開催され、市民ら約130人が現代の結婚事情や地域で行う結婚応援について学びました。この日、前半では「婚活」や「パラサイト・シングル」などの名付け親である中央大学文学部教授の山田昌弘氏を講師に迎え「婚活時代をめぐる」と題して講演を行いました。山田教授は、現代社会の未婚化の背景には、経済的な不安や出会いの減少（恋愛へのあこがれの消失、見栄がはれる結婚ができないことなどがあるとした上で、これらを解消するためには、親や地域が背中を押してやる必要があると話していました。また「昔ながらの結婚」が難しい時代だと、親や周囲も理解してあげることが必要だとも話していました。後半では「結婚応援を考える」と題して、山田教授ら4人によるパネルディスカッションが行われ、地域ぐるみでできる結婚応援について議論しました。会場からもいくつか質問・意見が出され、みんなで結婚応援を考えるよい機会となりました。

このシンポジウムは、人口減少の克服などを目的とした、市の地域活力創生総合戦略に基づく結婚支援事業の一環として実施したものです。このほか、結婚サポーターの募集・養成や、出会いイベント「農婚inつがる」7月29日〜31日予定」の開催などが予定されています。



基調講演「婚活時代をめぐる」講師の山田昌弘教授

## パネルディスカッション 「結婚応援を考える」



パネリスト  
湊 文博氏  
あきた結婚支援センター結婚サポーター



パネリスト  
大和山真一氏  
県農林水産部構造政策課担い手育成グループマネージャー



講師  
山田 昌弘氏  
中央大学文学部教授



コーディネーター  
兼パネリスト  
羽淵 一代氏  
弘前大学人文社会科学部准教授

婚活中の人も誰かの結婚応援をすれば、いろんな縁が広がると思う。地域・行政が一体となって結婚応援がんばってください。

結婚・出産をさせるための応援ではなく、本人たちが充実した生活を送るために結婚を支援するという意識が求められます。

結婚応援は、市の魅力やPRポイントなどを考えるいい機会。「つがる市をどれだけ愛しているか」を皆さんで考えてみてください。

結婚サポーターの地道な活動は実績が見えにくい。サポーターがやりがいを感じられるような仕組みを作ってください。



素晴らしい演奏で会場は大きな拍手で包まれました

## 被災地に笑顔を実相寺でチャリティコンサート

震災遺児支援チャリティコンサートが5月21日、実相寺(木造)を会場に行われ、約150人の観客が日蓮宗雅楽会(渡辺貫誠会長)のゆったりとした雅楽と木造高校吹奏楽部の迫力ある演奏を楽しみました。東日本大震災遺児への支援を目的とするこの企画は今回で4回目。実行委員会の代表で副住職の間宮秀文さんは「皆さんの笑顔が被災した子どもたちの笑顔につながるよう、今後も続けていきたい」と話していました。イベントの収益は、経費を除きすべて、東日本大震災遺児支援募金に寄付されます。

また演奏会終了後、熊本地震の被災者支援を目的とした募金を行い、賛同した多くの来場者が募金に協力しました。

## おおきなあれ、おいしくなあれ

育実幼稚園(平田昌子園長)の年長組園児20人が5月23日、木造芦沼の成田正敏さんの畑で、キスミーメロンの苗植えを体験しました。

初めに成田幸子さんから植え方を教わったあと、園児たちもポットから苗を出し素手で丁寧に植え、土とのふれあいを楽しんでいました。「おおきなあれ、おいしくなあれ」と願いを込め、この日は全部で40本の苗を植えました。

山谷凜仁君は「手が汚れたけど楽しかった、おいしいメロンを食べるのが楽しみです」と話していました。植えたメロンはお盆過ぎに1.5kgくらいに成長したところを収穫し、みんなでお食べます。



メロンの苗を植える育実幼稚園の園児



ホタルの幼虫を池へ放すもりた保育園の園児

## つがる地球村でホタルの幼虫を放流

つがる地球村の自然学習公園で5月23日、もりた保育園(田中潔園長)の年長児29人がホタルの幼虫200匹を池へ放流しました。

園児たちはヘイケボタルの幼虫と餌のタニシが入った容器を手で「元気に育ててね」と声をかけながら優しく放流。成田大輝君は「幼虫かわいかった。池の虫と仲よくしてね」と成長を願っていました。

この放流会は、訪れる方にホタルの光を楽しんでもらおうとつがる地球村が毎年行っているもので、担当職員によると、7月下旬頃からの約10日間、ホタルの成虫が舞う姿を見られるとのことです。

## 柏ミニバスがkojuカップを制す

5月28日、29日に岩木山総合公園体育館で開催された「第13回kojuカップミニバスケットボール交歓大会」女子の部で、柏小学校(藤本敦子校長)の児童が所属する「柏ミニバス」チームが優勝しました。この大会は、青森ワッツ初代ヘッドコーチの棟方公寿氏が故郷に恩返しをしたいという思いで始まったもので、今年は県内全域から男子の部、女子の部それぞれ12チームが参加し、2日間に渡って熱戦が繰り広げられました。6月16日、メンバーは福島市長に優勝を報告。キャプテンの古坂みなみさん(6年)は「最後まであきらめない」をチーム目標として、練習を頑張ったのが結果につながりました。今後も全国目指してがんばります」と今後の抱負を述べました。



優勝の喜びを報告した柏ミニバスのメンバー

## 牛瀨小学校、最後の「虫送り」

牛瀨町で5月29日、虫送りが行われ、牛瀨小学校（山本真規子校長）の児童と保護者ら約100人が、五穀豊穡と無病息災を祈願しました。牛瀨町では、平成元年から小学校の行事として学校、PTA、地域が一体となり虫送りを継承してきましたが、来年4月に富蒔、車力、牛瀨の3小学校が統合するため、牛瀨小学校としては最後の虫送りとなりました。この日は2体の虫を先頭に、殿や姫の仮装、赤い法被や襦袢などを着た児童や保護者が「サンサンソーレ」の掛け声とともに太刀振りを披露し、町内を練り歩きました。坂本亮真さん（6年）は「毎年楽しみで、6年間欠かさず参加してきた。太刀振りは体が覚えている。これからもずっと続けてほしい」と話していました。



牛瀨町内を練り歩く一行



佐藤副市長らに花を贈る木造保育所の園児

## いつもありがとう 木造保育所園児が職場訪問

木造保育所（千葉敦志所長）の園児15人が、6月の第2日曜日の「花の日」にちなんで、家庭から持ち寄った花で作った花束と手作りのかわいい壁掛けをプレゼントしました。

6月8日、市役所を訪れた4歳児15人は「この花のように」の賛美歌を合唱し「いつも私達のために働いてくれてありがとうございます」と佐藤副市長に花束を手渡しました。

佐藤副市長は「お花をありがとう。先生やいろんな方の話を聞いて、お花のようにきれいで立派な大人に成長してください」とお礼を述べました。

木造保育所では市教育委員会、警察署、郵便局、消防署へも訪問し、感謝の気持ちを花にして贈りました。

## 仲間と共に生涯学習

### 長寿大学開講式

つがる市長寿大学開講式が5月24日、松の館で行われました。長寿大学は、高齢者が充実した生活を送るための必要な教養の習得や仲間づくりをすすめ、地域における自主的活動を推進することを目的としています。今年を受講生は188人で、開講式では葛西学長（教育長）が各地区代表者に学生証を手渡し、学生を代表して小山内兼一運営委員長が「全員で修了証書もらえるよう、体をいたわりながらがんばりましょう」とあいさつしました。

式終了後の第1回学習会では、藤田久治さんのピアノ演奏に合わせて「四季の歌」や「ふるさと」など12曲をみんなで合唱し、会場が1つとなっていました。



学生証を受け取る吉田謹治さん（右）



好評のしじみ貝すくいどりコーナー

## 毎年恒例の朝市がスタート

6月19日、木造地区の千代町商店街で今年初の朝市が開かれ、多くの市民らで賑わいました。

オープニングセレモニーでは、福島市長が「多くの市民が訪れ、地域の活性化につながることを期待します」と激励のあいさつ。長谷川靖久実行委員長の音頭で関係者一同が「がんばろう！」を三唱し朝市がスタートしました。会場には新鮮な野菜や果物、魚などの地場産品が並び、大勢の買い物客を楽しませました。また、しじみ貝のすくいどりや、無料で振る舞われた長芋すいとん鍋などが好評でした。

この朝市は、10月まで毎月第3日曜日の午前6時半から開催されます。